＜お知らせ＞

－周辺地域のまちづくりにも大きく貢献－

「水戸北スマートＩＣ社会実験」

が始まりました。

平成１８年９月２５日から、全国初の高速道路本線直結型のスマートＩＣ（ＥＴＣ専用ＩＣ）となる「水戸北スマートＩＣ社会実験」が始まりました。

水戸市北部やその周辺地域からの高速道路の利便性が大幅に向上し、まちづくりにも大きく貢献するものと期待されています。

■スマートＩＣ社会実験とは

（背景）

日本の高速道路のＩＣの平均設置間隔は約10㎞ですが、欧米諸国では約４～５㎞と言われています。その理由として、日本の場合、ＩＣの建設に多額の経費がかかることや料金徴収などに伴う管理コストが大きいことが挙げられます。

このため、高速道路が通過する市町村のうち、約３割にはＩＣが設置されておらず、せっかく高速道路があっても有効活用できていないのではないかというのが従来からの課題でした。

そこで、建設・管理コストの削減が可能なＥＴＣ専用ＩＣであれば、追加ＩＣの設置が促進されるのではないかということで、実際にこうしたＩＣを設置する社会実験を国土交通省と地元自治体との共同で実施することになったものです。

（社会実験の目的と内容）

今後のスマートＩＣの円滑な導入を図るため、実際にＩＣの運営を行って、整備・運営上の課題や地域活性化に与える効果等を整理・検証していくのが社会実験の目的です。

具体的には、交通量や時間短縮効果などの調査やスマートＩＣ利用者や周辺住民・企業などに対するアンケート調査を行うことによって、スマートＩＣの課題や効果について把握を行っていきます。

（社会実験の実施状況）

スマートＩＣ社会実験は平成16年度より、全国の高速道路のＳＡ・ＰＡにおいて行われてきました。

これまでの実施箇所数　　３６箇所
　うち　恒久化された箇所　１８箇所
　　現在実験中の箇所　１４箇所

なお、常磐道の友部ＳＡスマートＩＣについては、去る１０月１日より恒久化されました。

■水戸北スマートＩＣ社会実験について

◇社会実験の概要

- 実施主体：国道１２３号スマートＩＣ社会実験推進協議会（会長：山形耕一茨城大学理事・副学長）
- 実施箇所：常磐自動車道と国道１２３号との交差部（水戸ＩＣと那珂ＩＣのほぼ中間）
- 実施期間：平成１８年９月２５日（月）～平成１９年３月３１日（土）
- 実施時間：２４時間通行可能
- 対象車種：ＥＴＣ搭載の全車種（ただし、けん引車、二輪車は除く。）
- 運用形態：東京方面乗り降り限定　※いわき方面の乗り降り不可
- 注 意 点：ＥＴＣゲート前で一旦停止

水戸北スマートＩＣ社会実験の実施場所

水戸北スマートＩＣの拡大図

（特徴）

水戸北スマートＩＣ社会実験は、従来、ＳＡやＰＡで行われていた社会実験とは異なり、高速道路本線に直接接続するスマートＩＣ社会実験です。高速道路と幹線道路をダイレクトに接続することにより、これまで以上に利便性の高いスマートＩＣとなっています。

また、ＥＴＣ専用のＩＣであることから、ＥＴＣを搭載していない車両を本線に戻すための専用レーンを設置するなど、他のスマートＩＣにはない特徴があります。

上り線オンランプの状況

ＩＣとは：出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
インターチェンジ（InterChange）とは、高速道路（高速自動車国道と自動車専用道路）や有料道路のように他の道路と区分された閉鎖的な道路区間と、他の道路との、出入りのための地点・施設をいう。特に高速道路の出入口のことをいう。

下り線オフランプの状況

（期待される効果）

水戸北スマートＩＣの設置によって、以下のような効果が期待されています。

①水戸市北部や周辺地域（城里町、那珂市、常陸大宮市など）から常磐道を利用する際の利便性が向上します。

②常磐道のＩＣへの交通が分散することにより、国道５０号など周辺道路の混雑緩和が期待されます。

③常磐道を利用して周辺の観光・レジャー施設などへ向かう際のアクセスが向上することから、地域振興への効果も期待されます。

④本ＩＣの北西部で開発が進められている「水戸ニュータウン」発展の起爆剤になることが期待されます。

（今後の取り組み）

水戸北スマートＩＣは単に高速道路の利便性が向上するだけでなく、地域の活性化にも大きく寄与するものであり、周辺地域のまちづくりを支える重要な要素となるものです。

社会実験を通じて、整備効果や課題の整理・検証を行って、できるだけ早期に恒久化されるよう、取り組みをすすめてまいります。

お問合せ先
茨城県土木部道路建設課
高速道路対策室
TEL　029-301-4439